

研究活動で報告

武庫川チャイルドスタディ 小学4年夏休み観察レポート

『武庫川チャイルドスタディ』では、今年小学4年生になる後発グループのお子さんのうち14名の方に参加していただき、昨年同様の形式でさまざまな課題を行っていただきました。小学4年生では、新たなプリント問題として“比喩・皮肉”に関する20の問題にチャレンジしてもらいました。大人が読むと思わずプツと笑いたくなるような文章問題ばかりですが、子どもたちは文意に合わせて正しく読み取ることができたでしょうか？



プリント問題

また、赤ちゃんのころからずっと行っている絵本の課題では、お子さん自身に本を読んでもらい、ストーリーや感想を説明してもらう形式です。感じたことを言葉で説明するのは難しかったかもしれませんね。子どもたちの感性や読み解く力、説明する力が必要な課題で、年齢とともに課題の難易度も高くなってきています。



文字無し絵本

運動面では、体力測定やなわとび、ボール投げといった種目にチャレンジしました。前回2年生のときに比べて、4年生になるとリズムよくスムーズにこなせる子もちらほらおり、大人のスタッフたちを驚かせていました。知能面、運動面で子どもたちの成長が一段と著しく感じられる時期になってきたとスタッフ一同感じております。



なわとび



ボール投げ

※掲載を承諾していただいた方のお写真を使わせていただいています

日本心理学会大会、 日本教育心理学会大会へ参加(学会発表)

2017年は、第81回日本心理学会大会(9月、久留米大学)、第59回日本教育心理学会大会(10月、名古屋大学)に参加し成果発表を行いました。研究チームからは、河合、難波、玉井が参加し、みなさまにご協力いただいた観察や質問票調査のデータをもとにした発表を行いました。一部をご紹介しますと、“自己抑制”に関する研究発表では、幼児期に実施した実験や園調査と、小学校入学後の学級適応との関係を分析しました。主な結果は、男子は幼児期のがまんができるかどうかと、学級適応にほとんど関連がありませんでした。しかし、女子は特に6歳の頃に園の先生に対してがまんができるかどうかと学級適応に関連がありました。今後も、長くご協力いただいているからこそ分かってきたことを発信していきます。

武庫川・子ども発達科学研究センター 移転しました



『武庫川チャイルドスタディ』を担当している武庫川女子大学子ども発達科学研究センターが、教育研究所棟(観察室のある建物)1階へ引っ越ししました。ご協力いただく皆さまにも、より利便性の高い、機能的なセンターを目指してまいります。

定期的な研究検討会の開催

毎年行っている全体検討会として、三重中央医療センター(『すくすくコホート三重』)研究チーム、武庫川女子大学(『武庫川チャイルドスタディ』)研究チーム、北海商科大学(データ分析)研究担当者が集まり、研究のまとめと今後についての検討を武庫川女子大学子ども発達科学研究センターで実施予定です。全体検討会では今後の展開についての検討を行う予定です。また、皆さまにご参加いただいている研究の進捗状況の報告、データ分析状況や今後発表予定の論文についても検討します。

今後の展開

本研究は、今年度が国から補助を受ける3年間の研究期間の最終年度です。これから子どもたちは青年期に入っていきます。子どもたちがどんな青春時代を送るのか、それは、これまでのさまざまな環境要因からどのように影響を受けているのか確かめるため、この研究のさらなる継続を希望しております。現在、次の競争的研究資金の獲得を目指して努力しています。

今後の予定とお知らせ

平成30年1月～12月までの研究スケジュール

『すくすくコホート三重』では、中学1年生・小学6年生の3学期に、郵送による質問票調査を予定しております。ご自宅へ質問票を送らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、現在小学6年生のグループの方には、来春中学校入学後にも郵送によるアンケート調査を実施いたします。こちらは中学校入学後のご様子をお伺いするもので、1学期中に実施予定です。小学生から中学生へと大きく環境が変わる時期かと思えます。勉強に部活にお忙しい時期ですが、ご協力よろしくお願いいたします。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中学1年生	郵送によるアンケート			(進級)中2へ								
小学6年生	郵送によるアンケート			(進級)中1へ		入学後・郵送によるアンケート						

『武庫川チャイルドスタディ』では、小学5年生、4年生を対象に、3学期に郵送による質問票調査を予定しております。大学での観察は、次回、平成30年夏休みに小学6年生(現時点5年生)を対象にお越しいただけるよう計画していきたいと考えております。先の予定になりますので、学年が上がりましたら詳細をご案内いたします。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小学5年生	郵送によるアンケート			(進級)小6へ			小学6年夏休みに観察を実施(計画中)					
小学4年生	郵送によるアンケート			(進級)小5へ								

転居などでご住所や連絡先が変更になった方は、お手数ですが各研究グループへご連絡ください。遠方へ転居の場合も質問票のみでもご協力を継続していただけると幸いです。引き続きご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

編集後記

今回のニュースレターでは、これまで皆さまにご協力いただいたアンケート調査結果から、放課後の過ごし方や留守番についての分析をご紹介します。また、これからの青年期を見据えて、身体発達のことにも少し触れさせていただきました。

今後さらに充実した内容をお届けできるよう、皆さまからのご意見や感想、ご質問などもお待ちしております。



【すくすくコホート三重】
〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL: 059-259-1211(代)

【武庫川チャイルドスタディ】
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学 子ども発達科学研究センター
TEL/FAX: 0798-45-9880 Email: info@childstudy.jp

この研究は文部科学省の日本学術振興会 科学研究費補助金(課題番号 15H03453)から研究支援をいただいています。



SUKUSUKU COHORT NEWS LETTERS

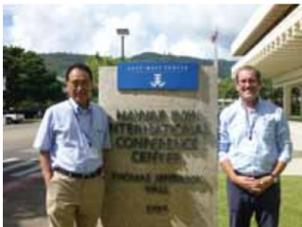
すくすくコホート

平成29年度号

ニュースレター



すくすくコホート三重・武庫川チャイルドスタディ



左)研究統括：河合優年

2017年9月に第29回 JUSTEC 日米教員養成協議会年次大会(ハワイ大学マノア校)に参加してきました。コホート研究にご協力いただいているみなさまが、小学校高学年から中学生になり、われわれの研究課題も学校での生活や学習面のウェイトが大きくなってきましたので、数年前から教育に関する研究会にも参加するようになってきました。

この学会は教員養成・教師教育における研究やプログラムを促進する目的のための集まりですが、教育関係者に広く開かれた協議会です。社会性、子どもの人間関係の広がりやこころの強さがどこから来ているのかという、コホート研究でのテーマは、アメリカの研究者にも強い関心を持たれています。

今回は、コホート研究で開発された学校での居心地のよさについての調査項目を、日本の学校で調査した結果を報告しました。私は現地2日間程度の慌ただしいスケジュールでしたが、報告の他に学会主催の講演にも参加できました。社会性の問題はアメリカでも大きな問題で、ハワイ大学では、小学生を対象に P4C “Philosophy for Children(子どものための哲学)”という取り組みをしていました。(“4”は“for”の略として使われています。)

子どものための哲学活動というのは、日本語に訳すと“ものごとについて考える授業”ともいいます。アメリカの小学校・中学校では、人とうまく付き合っていく“社会的関係性”をうまく作るのが教育のなかでも大きなテーマとなっていて、それが授業のひとつとして存在しています。講演では、この授業で用いている課題と一緒に体験しました。それは、グループでの話し合いの時に布でできた手まりのようなものを使います。手まりを持った人が話す、終わったら渡すというように進めていくことで、みんなが一斉に話し出さなくて、順番に話したり質問したりということを学んでいくのです。これによって、話し合いの順番だけでなく、よく考えて、よく聞いて、話し合うという事ができるようになっていくということです。

アメリカでは州によって法律や教育に独自性があります。今回訪れたハワイ州では、そうやって子ども自身が考える力を大切に考えており、その力を伸ばしていく教育プログラムがあるということは、たいへん興味深い発見でした。

私のハワイ滞在中に、アメリカ本土では高校生が銃を乱射して多くの人を殺傷するという悲しい事件が起き、大きなニュースとなりました。日本国内でも、いじめによる自殺などが伝えられています。このような、学校の中で子どもが命を縮めてしまう時代に、どうすれば子どもたちが自分の気持ちをうまく人に伝えられるようになるのかというのは、日本の教育のなかでもとても大切なテーマのひとつだと再認識したハワイ滞在となりました。

さて、今年度、すくすくコホート三重の先頭グループの20名のみなさんが中学校へ上がりました。お子さまについては、これまで保護者の方の同意、代諾という形式でご参加いただきましたが、そろそろお子さまご本人にも、この研究の内容や意義、同意についてのご説明をさせていただく時期にかかっていると考えています。私たちの研究について、また子どもたちが興味を持っている社会科学的分野について、わかりやすくお話しさせていただければという思いから、今回“子ども版ニュースレター”を製作することにいたしました。A4版1ページの簡単なものですが、お子さまと研究チームとをつなぐレターとして、新たなツールになるよう願っています。“子ども版ニュースレター”は、お子さまが中学1年生の方に同封しておりますので、お渡しいただければ幸いです。



米ハワイ大学での学会参加1コマ

『すくすくコホート三重』から研究協力者のみなさまへ

三重中央医療センター 田中滋己

今年も『すくすくコホート三重』にご協力いただき、ありがとうございます。誕生から子どもの成長を追跡していくこの研究は、現在も中学1年生・小学6年生の約130名にご協力いただいています。お子さまが小さいころは当院へ定期的にお越しいただき、私ども小児科のスタッフで直接観察をさせていただいておりました。お子さまも大きくなりましたので、現在は郵送の質問票調査が毎年定例の調査になっています。今年は、中学1年生は入学時と3学期の年2回、小学6年生は3学期に調査を実施します。ここでは、学校生活や学習面の現状、それらの年次的变化を中心に見ていけたらと思っております。

また、昨年度実施した小学5年生時のオプション研究

での『唾液の調査』も、解析が徐々に進んでおります。できるだけ協力者の皆様の負担を少なくするため唾液からの調査としておりますが、その分、解析には時間を要しています。こちらもある程度のデータが集積できたら、みなさまに研究の成果を選元していきたいと考えています。

研究開始から今年で早13年目を迎え、長期間に渡るご協力にたいへん感謝しております。今後もうぞよろしく願っています。



青年期の身体発達

小学5年生のデータを整理してしましたら、最も背の高いお子さまがもう156センチ、これを書いている私(難波)の身長と同じということが発見して驚愕しました(体重はまだまだ勝っております)。現在はもう私が見上げないといけない身長になられていると思うと、改めてこのコホートに長くお付き合いいただいていることに感謝の念が湧いてまいりました。

さて、小学4年生の調査から、上記の身長を含む身体発達について伺いする項目を入れていきます。身長や体重もさることながら、この時期是非伺いしておきたいのは、第二性徴(精通、月経)に関することとなります。デリケートなトピックではありますが、年少少女から大人の男性女性へと変化していく大切な身体の変化です。そして、単に身体が変化するというだけでなく、性を持つ大人に変化していくことをどう捉え自分のものとして受け入れていくのか、また周囲からどう捉えられていると感じるのかが心の発達に影響していきます。

ところで、これを読んでおられる親世代のみなさまは、いつ頃第二性徴が始まったか覚えておられるでしょうか。近年は、女子は概ね12歳頃が初経の平均年齢、男子は1,2年遅れて精通が開始されると言われています(もちろん、個人差があります)。ちなみに、すくすくコホート三重の小学5年生の調査では、2割程度の方がすでに第二性徴が始まっている、ということでした(6割がまだ、2割程度の方が分からない、というご回答でした)。これを聞いて、早いな、と思われたでしょうか。それともそんなものかな、と思われたでしょうか。これまでの初経に関する調査によると、初経はだんだん早くなっているということが分かっています。ターナーという人が1970年代にまとめた研究では、1860年頃は、初経が16歳台(フィンランド、ノルウェーのデータ)だったようです。しかし、日本でも日野林俊彦という研究者が中心となって、初経開始年齢の調査が続けられており、他国と同様、年々開始が早まっていることが示されています。だんだん早くなってきたというものの、どこまでも早くなるということはなく、近年は早くなっていくスピードは鈍化しているという報告もあります。

また、コホートの調査では、第二性徴を迎えた時の親の気持ちも伺っています。喜ばしい、特に何も思わない、というだけでなく、戸惑いを感じておられる方もいらっしゃいました。特に異性の場合(母親一息子、父親一娘)、戸惑ったり、どう接してよいのか分からなかったりすることもあるでしょう。もちろん同性でも、子どもだと思っていたのに、突然大人になったようで戸惑われることもあるかもしれません。第二性徴が始まると、いよいよ青年期に入り、心身ともに大きく変化していきます。子どもたちの変化を受け止めつつ、暖かく見守っていただきたいですね。(難波)

『すくすくコホート三重』小学4年生、小学5年生の調査から

夕方の時間の過ごし方

まず、地域によって学童保育(放課後児童クラブ)の事情が異なりますので、そこから見ていきましょう。少し前までは学童保育は小学3年生までが対象でしたが、現在は全学年を対象のように変わってきています。しかし、小学4年生の調査では、79.3%の方が利用対象学年であると回答していることから、津市を中心とする三重県近辺では、まだ完全に全学年を対象とした体制ではないようです。そして、すくすくコホート三重で学童保育を利用しているのは、小学1年生で26.3%、3年生で22.9%、4年生で17.1%、5年生で15.3%でした(週5日未満の利用も含む)。学年が上がるにつれて、利用率が下がっていることが分かります。

学校から直接帰宅する時に大人が家にいるかどうか伺ったところ、小学4年生(後半コホートのみの質問)では64.0%、5年生で56.6%のご家庭で、どなたかがいらっしゃるということでした。では、その他のご家庭では、子どもたちはどのように過ごしているのでしょうか。

調査では、家の中で過ごす場合(図1)と、外で過ごす場合(図2)に分けて伺いました(選択肢から該当するものを選択、複数回答可、%は全回答者に対する選択割合)。家の中で過ごす場合は、一人またはきょうだいと過ごしている子どもが多いことが分かります(小学4年生32.2%、5年生41.2%)。また、外で過ごしている場合は、習い事が最も多く(小学4年生25.4%、5年生24.5%)、大人がいる場所で過ごしている(友だちのお宅か、祖父母宅、自営業のお店などでしょうか、小学4年生11.9%、5年生15.7%)、公園、広場などで遊んでいる(小学4年生7.6%、5年生14.7%)と続きました。小学4年生と5年生を見比べてみると、大きくポイントが増えているのが、家の中で一人またはきょうだいと過ごす、公園、広場など外で遊んでいる、というものでした。学年が上がると子どもだけで過ごしている割合が高くなっています。

留守番は心配？

次に、最も多かった家の中で子どもだけで過ごす、いわゆる“留守番”について、もう少し見てみましょう。「留守番をさせることについて、不安に思ったことや抵抗感はありませんか。」という質問に対して、小学4年生では35.1%、5年生では31.5%の養育者が「ある」と答えられています。具体的には、不審者、犯罪などへの不安が多く、火事や地震への不安、怪我や困りごとへの心配などが記述されていました。また少数ですが、さみしくないか、申し訳ない、という子どもの気持ちへの心配や、テレビやゲームばかりしているのでは、という過ごし方への心配もありました。

また、小学4年生で30%、5年生で26%のご家庭で留守番時の約束ごとをされていました。具体的には、上記の心配事に対応するように、人が来た時は対応しない、火元に気を付ける、宿

題をちゃんとする、というところが多くなっているようです(図3、記述を内容で分割し、同様の記述の出現個数を集計)。小学4年生と5年生で概ね同じ傾向ですが、外出禁止がなくなり、その分、親にちゃんと連絡する、という約束をされるご家庭が増えているようです。これも先述した外で遊んでいる子どもの増加と対応しているのかもしれない。また、玄関施錠・開けない、というのも減っています。小学5年生になって、一々言わなくてもできることが増えているのかもしれない。

留守番は楽しい？!

それでは、当の子どもたちはどのように感じているのでしょうか。子どもたちの報告によると、小学4年生で88%が、5年生で95%が一人で留守番をしたことがあるということです。留守番は好きか聞いてみると、過半数は「ふつう」で、1割ほどは「きらい」なようです。積極的に「すき」と答える子どもが小学4年生では17%だったのが、5年生では30%に増えています。さらに、留守番のときの気持ちを尋ねてみたところ(図4、各項目で「はい」と回答した割合)、先ほど「ふつう」と答えた割合と同じくらいが「いつもと変わらない」と答えています。それを除けると、小学4年生では「さみしい」や「こわい」といったネガティブな気持ちがポジティブな気持ちを上回っています。しかし小学5年生では「うれしい」や「ラッキー」、「楽しい」といったポジティブな気持ちがネガティブな気持ちよりぐんと多くなっています。

小学4年生では、まだまだ親も心配、子どもも不安だったものが、小学5年生になると、親も、子どもだけでも何とかかなかな、と思えるようになってきて、そして子どもたちは親の目の届かない自由な時間と受け止め、楽しみな時間となってきている、そんな姿が調査から見えてきました。(難波)

